

# 令和5年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和5年11月9日（木） 9：45～11：45

## <参加者>

評議員 徳増 久子 様（障がい福祉サポートセンター「ゆうとうの風」センター長  
相談支援事業所「風の路」所長）  
尾崎 晴之 様（自治会長）  
柴田 詩子 様（湖西市民生委員 主任児童委員）  
内山さよこ 様（湖西市教育委員会学校教育課指導主事）  
坂下 真一 様（浜名学園）杉田 洋一様代理  
河合 梓 様（プライムアース EV エナジー株式会社）  
菅沼 良枝 様（本校 PTA 会長）

学校関係者 校長、教頭、事務長、小学部主事、中学部主事、高等部主事、教務主任

## <議事録>

（1）令和5年度前期活動報告（教頭） 別紙資料

### ・地域共同・協働学習（資料1）

部主事より、各学部の今年度の活動事例を報告

小学部：オカリナ演奏会を年2回（5月、9月）実施。講師は湖西市在住の方（70代男性）  
オカリナ、ハーモニカの演奏と手品、バルーンなどをしてくださった。

マリンバ演奏会を実施。講師は湖西市在住の方（元中学校教諭 女性）

マリンバの演奏会をしてくださり、小学部2年児童が演奏を聞いたり、一緒にマリンバを演奏させていただいたりした。

中学部：新居中学校1年生との交流学習（学校間交流）

事前に自己紹介カードを送り合うなど間接的な交流と、本校生徒が新居中学校を訪問して一緒に活動する直接的な交流活動を実施した。直接交流では、本校生徒の好きな物が自動車と聞いて、新居中生徒が手作りで乗り物を用意してくれたりアルトミカなどのゲーム活動と一緒にいった。初めは互いに戸惑う様子もみられたが、活動を通して自然に話をしたり、触れ合ったりする姿が見られた。

地域の方との奉仕作業

10月に地域の方と一緒に海岸清掃、校内清掃を行った。地域の方と生徒でペアになり大倉戸海岸のごみ拾いをした。生徒たちは「地域をきれいにする」「地域の方と仲良くする」という二つの目標をもって活動することができた。

その他、校外学習では、公共交通機関の利用（電車、バス）、浜松市内の各施設、買い物学習、宿泊学習などを行った。

高等部：「働く人」をキーワードに地域共同の学習に取り組んだ。

農耕班では、育てた野菜を近隣スーパーに納品させていただいた。納品したナスを、店舗で総菜に加工していただき、一緒に販売を行った。生徒は実際の販売の場で、緊張感をもって、活動することができ、働くことにつながる活動となった。

生徒会活動では、新居町商工会の「新居アンス」の活動に参加した。地域の工務店の方と一緒に、子どもたちにハンマーの使い方を教えたり、遊び道具を作ったりした。

#### ・危機管理（資料2）

教 頭: サバイバルキャンプの実施に向けて、鷺津中学校に場所の提供を打診したところ、校舎をリフォーム中だが、施設利用の協力は可能との返答をいただいている。夜間を伴う利用については、市役所に問い合わせをする。また、発災後の避難所生活についても考えていきたい。

#### （2）グループディスカッション

テーマ『地域共同・協働』について3つのグループに分かれて協議を行った。

#### （3）授業参観 校内を20分間ほど参観

#### （4）全体共有まとめ

##### Aグループ（中学部主事より）

##### ・教育活動について

買い物学習では、ファミリープラザ、しまむら、100円均一などを利用している。徒歩圏内に行ける場所や信号機のある交差点、ポストがあると良い。高等部は作業製品の納品、総菜販売など、地域の店舗との関わりがもてた。実際に、自分たちの作業製品を使ってもらっているところを見られると目的や達成感を感じられて良い。

##### ・自治会とのつながりについて

今後も奉仕作業を一緒にできると良い。他の地区でも、公民館清掃などができると良いが、公民館6か所それぞれに清掃のやり方（曜日や時間）が違う。

##### ・人材活用について

地域の方、老人会、福祉会、市の達人録などがあり、しめ縄づくり、バルーンアート、藍染めなどを教えてもらえるので活用したい。新居高校のボランティア部もあるので今後、関わると良い。

## Bグループ（高等部主事より）

- ・浜名学園様では、今は感染症対策のため実施できていないが、以前は本校ともちつき大会や高等学校とクリスマス会をしていたので、また再開できるようになると良い。
- ・プライムアースE Vエナジー様の防災訓練に本校生徒が参加してはどうかとの御提案をいただいた。また、バリスタ、カフェスペース、売店、保育所の保育助手など、様々な取り組みについて御紹介いただいた。11月に4年ぶりのフェスタを実施するので、今後、フェスタなどでも本校と連携できると良い。
- ・校外学習の充実と、キャッシュレス決済を家庭や学校でどのように扱えば良いのかについての意見交換をした。

## Cグループ

- ・小学部では、人と接するのが楽しいという経験や自分のできることを増やしていくことで、積極性のある子どもに育てていく。中学部では、地域との活動を定着させつつ、さらに地域の特性にも着目していくと良い。高等部では、地域と連携して、納品したものが、加工されて、製品になるという経験ができ、働くことにつながる学習ができていている。
- ・発災後のアフター避難生活では、人権を守っていくことが大切。非常時はパワーバランスが壊れやすいが、人権意識を高めることで障害がある人も居やすくなる。

司 会：3グループの特徴が出た話し合いができた。その地域ならではの、そこに住む人々とのコラボレーションなどで特色が出てより豊かな教育活動ができる。プライムアースE Vエナジー様の取り組みについて、社内の様子を教えてください。

E委員：例えば、社内ですべてできる場所として、カフェスペースを運営している。新しい取り組みをする際は、各部署でスモールスタートして、賛同者を募り、全社に広げていくようにしている。

司 会：スモールスタートによる柔軟性がある。そのような企業が湖西市にあり、本校が繋がっていることに幸せを感じる。

司 会：金銭については学習が必要。「稼ぐこと」と「使うこと」のバランスや現金とカードの学習など。学校の中では、カードの学習は難しいかもしれないが、今の子どもたちはデジタルの時代なので、スマホ等を使いこなして生活していくことを身に付けていく必要もある。家庭の協力が必要となってくるが、お子さんの様子を教えてください。

F委員：我が家では、カードや電子マネーはまだ本人に使わせていない。

司 会：これからは、家庭を含めた個々への学習が必要になってくる時代になっていく。授業として、この学年、この時期に何を組み立てるか、12年間を見通して考えていくと良い。

(5) その他（教頭） 次回は、2月6日（火）第3回学校運営協議会 開催予定